

第3章 基本理念

人がまちをつくり、まちが人を育む学びの循環のもと、 互いに認め合い、自分らしく学び続ける人を育てます

■ 学都・仙台、まちと人の関わり

本市では、江戸時代の藩校「養賢堂」に始まり、明治以降には多数の教育機関が設置され、そこに多くの若者や研究者が集い、まちと関わりながら研究・教育が活発に行われることで「学都・仙台」の今日の発展につながってきました。また、戦後には社会教育が花開き、社会学級をはじめとした多彩な学びの場は市民の力を育み、多くの市民活動の萌芽を支えてきました。

全国に先駆けたバリアフリーまちづくりや、環境美化、脱スパイクタイヤ運動、防災・減災の取組など、様々な都市課題に対し、多様な主体の参画による市民協働の取組が本市では進められてきました。こうした市民の行動の積み重ねによって、暮らしやすいまちづくりが模索され、共生の礎が築かれてきた歴史が、今日の本市の大切な都市個性につながっています。

■ 「学びの循環」の継承

こうした背景をもとに、これまで本市においては、人づくりとまちづくりをつなげ一体のものとして進めるため、教育の基本理念に「人がまちをつくり、まちが人を育む学びの循環」を掲げ、多岐にわたる取組を進めてきました。「学びの循環」とは、一人ひとりが学びを活かして交流することで、まちは発展し人を育む土壌となり、一人ひとりのさらなる学びや活動につながるという考え方であり、今後においても踏襲すべき重要な立脚点と捉えています。

■ 育てたい「人」

現代社会は、情報化やグローバル化の急速な進展とともに、頻発する自然災害や感染症の流行、貧困、環境問題など、多くの地球規模の課題を抱えており、将来の変化の予測が困難なVUCAの時代とも言われており、生涯にわたって自ら学び続ける姿勢や習慣はより重要性を増しています。こうした姿勢を持つことが、変化が激しい社会においても、新たな学びを得て、それを活かしながら課題を解決する力や可能性を探究する力につながります。

グローバル化や価値観の多様化などが進む中、年齢、性別、障害の有無、国籍などに関わりなく共生し、すべての人が持てる力を発揮できるまちづくりが求められています。多様性に目を向け、あらゆる他者を価値のある存在として尊重することは、多様な人と積極的に関わり合い、協働しながら社会の変化を乗り越え、共に未来の社会を創り出す力につながります。

こうした学び続ける姿勢や互いを尊重する気持ちを持つ上で基礎となるのは、自分自身を認めることです。他者との関わりの中で自分自身と向き合い、自分を受け入れ、自分を大切にすることは、学び続ける意欲につながり、また、学び続けることは他者理解を深めることにもつながります。このことは、人生100年時代と言われる中、こどもたちだけではなく大人にも大切なことです。

■ 本市教育の使命と基本理念

人生 100 年時代といわれる中、こうした力や姿勢を備えることは、こどもだけではなく大人にとっても大切なことであり、それを支えることは本市教育の使命です。「学びの循環」のもと、自分を受け入れ、自分を大切にしながら、多様な他者と互いに認め合い、生涯にわたって自ら学び続ける人を育み、その一人ひとりが学びを活かして交流することで、さらなる学びや活動につながる。こうした好循環を実現することが、個人や社会のウェルビーイングの向上につながり、「学都・仙台」としての本市の都市個性のさらなる磨き上げや、持続可能なまちづくりにもつながります。

以上の考え方をもとに、「人がまちをつくり、まちが人を育む学びの循環のもと、互いに認め合い、自分らしく学び続ける人を育てます」を、本市の教育における基本理念として掲げます。

